

0.社会を変える2つの回路

・少数によるイノベーション

- ・ 非連続な変化
- ・ 既存の価値基準を壊す
- ・ 周縁・逸脱から生まれる
- ・ 少数の実践者が先行

少数の突出した
生産性向上

生産性



レジデント型教育・研究プログラム



地域協働による教育プロジェクト



企業と連携したプロジェクト型インターンシップ

・多数による実践の蓄積

- ・ 連続的・漸進的な変化
- ・ 既存の仕組みを活用
- ・ プラットフォームが基盤
- ・ 多数の参加者

生産性

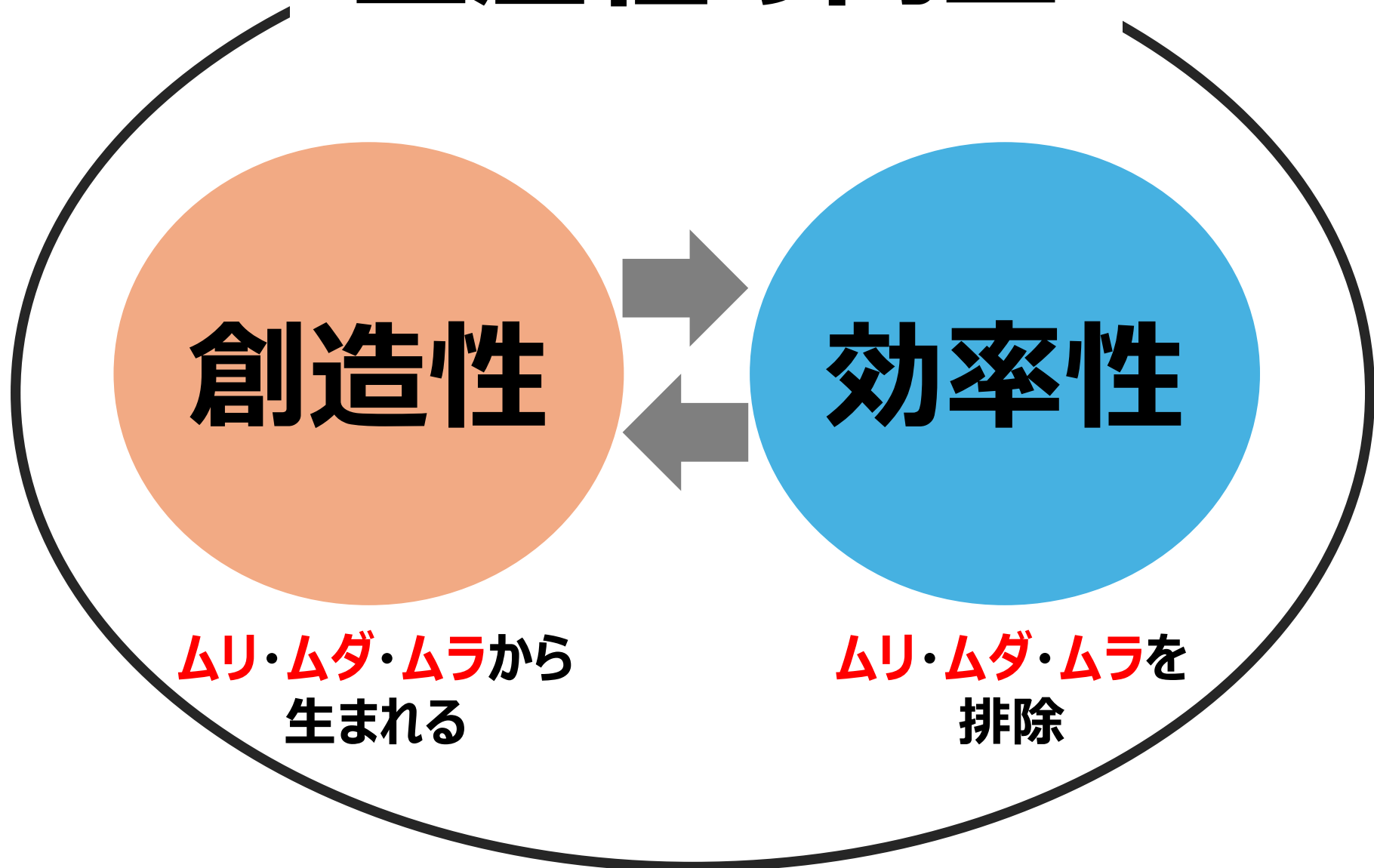
多数だが緩やかな向上
+ プラットフォームによる
下支え

地域構想推進
プラットフォーム

人

人

生産性の向上



ムリ・ムダ・ムラから
生まれる

ムリ・ムダ・ムラを
排除

少数によるイノベーション
(レジデント型教育・PBL・PBI)

多数による実践の蓄積
(プラットフォーム)

1. 効率性の高いプラットフォームを目指して

- 計画づくりから実践・試みの蓄積へ
- 多くの学生の参画
 - 大学、専門学校
- 地域産業に近いところに大学拠点
 - 南予水産研究センター、紙産業イノベーションセンター、今治サテライト
- コーディネーターは産業別に（事業別ではなく）
 - パーソナルネットワークを各種事業に活かす
- フラットな運用
 - 学生と企業の現場を直接つなげることができるしくみ

2.コーディネーターの役割と育成

①なぜコーディネーターが不可欠か

- **孤立する実践**

- 地域のすぐれた取り組みが周囲に知られずに消えていく

- **断絶する実践**

- 一時的な盛り上がりで終わり、次の実践に繋がらない

- **散在する実践**

- 個別の実践が並立し、相互に学び合えない

「多数の実績の蓄積」を目指した「接続の失敗」を補い、
実践に躍動力をもたらす存在がコーディネーター

←Burt 構造的空隙 / Wenger 実践共同体のブローカー

2.コーディネーターの役割と育成

②コーディネーターの3つの役割

- **翻訳者**

- 異なる実践・文脈・言語の間を橋渡しする
(例) 学生の学び×地域課題、生産者の実践×行政の言語

- **場の設計者**

- 実践が生まれる条件を整える (人・資金・場所)

- **物語の語り手**

- 散在する実践を意味ある物語として接続

2.コーディネーターの役割と育成

③コーディネーターをどう育てるのか

- **熟達コーディネーターの実践知の形式知化とカリキュラム化**
 - 熟達者調査に基づくコンピテンシー・モデリング (McClelland, Nonaka))
- **実践の中での育成**
 - 経験学習：具体的経験→内省→概念化→実験のサイクル (Kolb))
- **境界を越える経験**
 - 越境学習：複数の異質な実践共同体の間に身を置く経験を通じてのみ育つ (Engeström)

3.地方での人材育成の課題

- エビデンスの少なさ（データの分散、政策シミュレーションの不在）
- すべての産業分野で人材が不足？
- 地域サービスを担う人材の不足
 - 地域創生のリカレント教育プログラム（自治体職員、地域おこし協力隊、NPO職員、大学生、高校生など）



地域創生イノベーター育成プログラム